

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 豊中市立上野小学校  
種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他（ ）  
所在地 〒 560-0013  
大阪府豊中市上野東 2-8-8  
E-mail [t\\_uenosho@city.toyonaka.osaka.jp](mailto:t_uenosho@city.toyonaka.osaka.jp)  
Website <http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/ueno/>  
児童生徒数 男子 586名 女子 536名 合計 1122名  
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

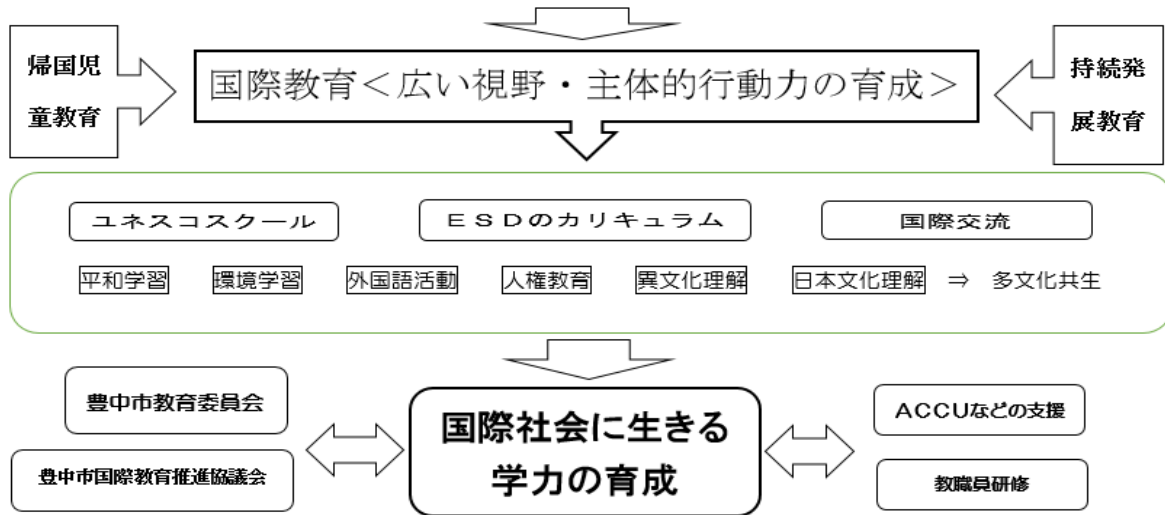
### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### ◇ 上野小学校の国際教育＜2015年度（平成27年度）＞

【地域】戦後開発された町閑静な住宅地。府立高校・私立中等学校・私立幼稚園2校ある文教地区。公民館をはじめ各種団体の活動が盛ん。  
【保護者】教育熱心・転勤家族が多い・学校を大切にす・学校教育への関心が高い・PTA活動が盛ん

【児童の実態】とても優しく素直・学力は比較的高い学力に差がある・意欲だが、筋道を立てて自分の考えを説明したり論理的に考えたりする力が弱い。



国際教育で育成したい態度や能力

- ① 異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力
- ② 自らの歴史、伝統文化に立脚した自己の確立
- ③ 自らの考えや意見を発信し、具体的に行動する態度・能力

本校は国際教育を軸にして研究を進めている。6年間を通して系統的に自らの歴史・伝統文化を学び、多様な人々と触れ合うことにより異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力、また各研究推進委員会と連携し全学年で自らの考えや意見を発信し具体的に行動する態度・能力の育成に努めている。

今年度も児童の実態にもとづいて、各学年が教科横断的にESDカリキュラムを改善し、広い視野と主体的な行動力の育成に取り組んだ。ESD（持続可能な開発のための教育）は、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。ますますグローバル化していく未来を生きていく子ども達には、多様な人々を受容・共生する力、課題を解決するために探求する力が必要であり、世界のために、地域のために、思いやりを持って主体的に行動する力が求められる。そうした背景を踏まえ、各推進委員会と連携しながら、学校全体でESDカリキュラムをPDCAサイクルでより良いものへと今後も改善していく必要がある。

また、今年もAETを1ヶ月間迎えた。AETが学校に常駐することで、児童が気軽に楽しくいつでもAETと接することができ、英語を身につけようとする意欲が高まるとともに、異文化や異文化をもつ人々を受容・共生する能力の育成に役立った。国際児童間交流としては、3年生が地域のことを学習して作った新聞などをドイツ・ミュンヘンの日本人国際学校に送り、ドイツからは日本人国際学校の児童や学校の様子がわかる写真を送ってもらい交流をもった。児童会では、文房具を集めてカンボジアの学校に送り、ペットボトルキャップを回収してそれをワクチンにかえ、ワクチンを接種するのが難しい地域の子どもた

ちに贈った。さらに、今年も書き損じハガキを集めて「ユネスコ世界寺子屋運動」へ参加した。

◇ 2015年度 各学年国際教育年間計画

1年	テーマ ねらい 内容	だいすき にほんのおはなし・うた・あそび お話やうた、遊び等、日本に昔から伝わるものを知り、親しむ。 (1) 民話(絵本)を通して、日本に古くから伝わるものについて知る。 (2) セタカジリ・折り紙等日本に古くから伝わる文化について知り、体験しながら自国文化の理解を深める。
2年	テーマ ねらい 内容	知りたいな 知らせたいな 世界のこと (1) 日本の神話や伝承話を通して「伝統的な言語文化」に親しむ。 (2) 帰国保護者会の人から、いろいろな国のことを聞く。 「いろいろな国を知ろう」では、帰国保護者会などの聞き取り学習を実施し、調べ学習をする。それをまとめて学年交流会を持つ。 (アメリカ・ドイツ・イギリス・シンガポール・ロシア)
3年	テーマ ねらい 内容	やさしい町 上野 ～まちがすき、人がすき～ 日本や世界のユニバーサルデザイン事情について知り、だれにとっても暮らしやすいまちについて考える。 (1) 自分たちの住んでいる所のいいところを探す。 (2) 日本や他国のユニバーサルデザインについて。 帰国保護者会聞き取り学習 (3) 外国語体験
4年	テーマ ねらい 内容	広げよう！エコライフ 身の回りの環境や資源について調べ、考えることで、自分たちの生活を見つめ直す。 (1) ゴミや水について調べよう！ (2) 身近な環境について考えよう！
5年	テーマ ねらい 内容	生命を支える食 自分たちの食べているものは、多くの人やものなどが関わっていることを知り、食物は生命のつながりの中で生産されていることについて考える。地域で食物を生産し、地域の食材を消費することの良さを学び、生命を支える食について、学んだことを発信する。 (1) 主食である米について知ろう。 (2) 自分たち食生活を見直そう。 (3) 生命を支える食について調べよう考えよう。 (4) 生命を支える食について学んだことを発信しよう。
6年	テーマ ねらい 内容	見つめよう日本、広げよう世界へ 平和学習を通して、戦争の悲惨さを知り、いのちの尊さについて考える。また、世界の子どもの現状・課題及びそれらに対する取り組みを調べることを通して、世界の諸問題への関心を高め、理解を深める。 (1) 修学旅行での学び(事前学習・資料館見学・平和記念公園見学・語り部さんなど) (2) 調べ学習「伝えよう 平和への思い」(学年発表会) (3) 調べ学習「世界の子どもたちは 今」(新聞作り)、難民支援協会の方からの聞き取り学習

## ◇ ユネスコスクール／国内・国際交流事業

本校は2009年6月に豊中市で初めてユネスコスクールに加盟した。ユネスコスクールは、ASPnet (Associated Schools Project Network) としてユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として、1953年に発足した。世界の加盟校は181カ国、約10,000校がASPnetに加盟し活動している。日本の加盟校は2015年4月現在、900校を超える。文部科学省および日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置づけ、加盟校増加に取り組んでいる。

昨年の世界大会で採択された岡山宣言を受け、2015年の第7回ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会では、ESDのさらなる推進に向けた話し合いがなされた。日本ユネスコ国内委員長の安西祐一郎氏からは、ユネスコスクールは全ての学校での取組の充実を目指すとともに、ESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校として位置づけられていること、ユネスコスクールとして求められる取組として、他の学校や大学、若者、NGO/NPO、企業等地域関係者との連携を強化することの必要性が述べられた。

本大会分科会においても、各校のESDの活発な取組の様子や将来に対する展望、各校が抱える課題の解決のための話し合いなどが行われた。今後は、「〇〇をやればESD」ではなく、どの授業でもESDの価値が内在しているような展開が期待される。

本校では、広い視野と主体的な行動力を育むため、国内・国際交流事業を通して、ESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んだ。また、帰国児童など異文化を背景にもつ児童をはじめとして、全ての児童が尊重されるような学校体制を目指した。

### (1) ねらい

- ① 広い視野と主体的な行動力を育成するため、日本および世界各地の子ども達と交流し、その国や地域の文化を知るとともに日本文化等を発信する。
- ② ESDなどの学習課題や教科学習を交流先の児童と連携して取り組む。
- ③ 異なる言語・文化環境の人々とコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつ。
- ④ 教材や授業方法等を交流することで、本校教育の一層の深化を図る。

### (2) 国内・国外交流先や交流内容



- ① 韓国・巨済市・菊山初等学校(ユネスコスクール加盟校、2010.8.27. フレンドシップ提携校)  
1年生が昔遊びの紹介した作品を送った。
- ② アメリカ・サンマテオ市・パークサイド小学校 (2012.5. フレンドシップ提携校)
- ③ ドイツ・ミュンヘン日本人国際学校  
3年生が上野小学校校区について学習ことと、ミュンヘン日本人国際学校で現地の子どもたちが町並みや学校の様子について調べたことを交流した。
- ④ カンボジアカンボジア・ピートゥヌー小学校／文房具寄贈活動  
計画委員会児童を中心に、文房具を集めてカンボジアへ寄贈した。現地に学校をつくっているNGOやカンボジアからの留学生によって、現地へ文房具が届けられている。
- ⑤ ユネスコ世界寺子屋運動  
計画委員会児童を中心に、世界中すべての子どもたちが、寺子屋に通って読み書きができるようになるために、書きそんじハガキ回収への協力を校内へ呼びかけた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）